

大基委大評第 269 号

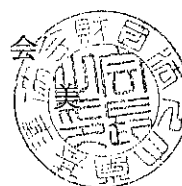
平成 23 年 3 月 11 日

岡 山 理 科 大 学

学 長 波 田 善 夫 殿

財団法人 大学基準協会

会 長 納 谷 廣



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果（岡山理科大学）」

以上

＜ 改善報告書検討結果（岡山理科大学） ＞

[1] 概評

2006（平成18）年度の本協会による相互評価に際し、問題点の指摘に関する助言として9項目の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、貴大学が、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることを確認できる。また、多くの項目についてその成果も満足すべきものである。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる

教育内容・方法については、理学研究科および工学研究科における社会人受け入れに対応した教育課程上の特別な配慮は検討段階であることから、引き続き検討が望まれる。

研究環境については、教員の年間の平均毎週授業時間数を是正するため、学内の教員定数を定めて教員人事を行っており、過重負担の軽減に配慮しつつ教員の採用・補充にあたってはいる。しかし、2009（平成21）年度においても年間の平均毎週授業時間数が高いことから、引き続き研究時間確保のための配慮について検討し、改善することが求められる。

また、教員組織については、長期的な計画のもとに20代から60代までバランス良い教員構成とする教員採用方針に従い、改善に向けた人事計画を今後も着実に進めていくことが望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上